

# あけまして おめでとうと うぐいさ ります

## 町長 徳 永 哲 雄



町民の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

町民の皆さまには、昨年も町政に対する温かいご理解と絶大なご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。おかげさまで、長引く景気低迷で税収が落ち込み、財政が好転する兆しも見えな中ではありましたが、何とか、弟子屈中学校改築工事および道の駅改修工事など各種事務事業を着実に進めることができました。

しかし一方で、春の低温、6月以降の記録的な猛暑による影響で、酪農は生乳生産が前年比98%の伸びにとどまり、畑作においては品質の低下と病害虫の発生が重なり、減収を余儀なくされ、農業全体では大変厳しい年となったところであります。さらに、農林水産業を崩壊させ、食料の安定供給をも揺るがすTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）参加問題に直面し、その打撃は計り知れないものがあります。今後、断固阻止すべく全国的な問題として関係団体とともに反対運動を続けてまいりたいと思っております。観光面におきましては、道

東を舞台とした中国映画の効果で、道内を訪れる中国人観光客の激増に伴い一部潤ったものの、沖縄県・尖閣（せんかく）諸島沖での中国漁船衝突事件をきっかけに日中関係が不透明となり、観光産業への影響が心配されることもあります。こうした状況の中ではありましたが、本町の良さを再発見してもらう、経済効果をもたらすという目的で、町内で町民が宿泊する際に2千円を割り引く、町民宿泊促進支援事業を展開したところ、12月上旬までで1千人を超える利用があったところでございます。また、環境と産業と地域社会の共生を目指して実施した摩周・屈斜路環境にやさしい観光交通実証運行に伴い、2日間交通機関が乗り放題で、町内協賛店での利用割引や特典付きの弟子屈2daysエコパスポートの利用者が、昨年度より16%伸びたところでもあります。公共工事では、広域避難施設でもある社会老人福祉センターや公民館、そ

さて、一昨年の政権交代および昨年の参議院選挙での与党大敗からねじれた政権となった中で、景気や雇用情勢の悪化、揺らぐ外交案件など課題も多く、さらに人口減少や少子高齢化が進む社会背景の中ではありますが、本年も全力で町政運営に臨んでまいりたいと思っております。詳細につきましては、3月開催の第1回町議会定例会におきまして、町政執行方針の中でお示しをさせていただきます。観光客の入り込みが激減する厳しい現実の中で、摩周湖や屈斜路湖など豊かな自然や歴史、温泉など素晴らしい資源を生かし、農業や商工業との連携による地域活性化を目指してまいります。「道の駅・摩周温泉」につきましては、7月オープンをめどに改修工事を進めており、すが、観光情報の発信機能、地場製品のアンテナショップ機能、休憩交流機能を備えた観光の拠点施設として、お客さまを温かくおもてなししたいと考えております。と同時に、着地型旅行の対応や感動して帰っていただけるような受け入れ態勢をしっかりと構築できるようにしていかなくてはなりません。推進協議会を中心に、各関係団体と連携を図り「誰もが自慢し誰もが誇れるまち」づくりに取り組んでまいりたいと思っております。

す。そして、宿泊施設はもとより、街路や住宅も含めて観光地らしく花々でお迎えする活動も行っております。福祉政策につきましては、昨年と同様に高齢者世帯における福祉灯油や水道料の助成、妊婦健診の継続助成を行い、新規事業として、子宮頸がんワクチンや小児用ワクチンの拡大と助成を実施してまいります。また7月からは、いよいよ地上デジタル放送に完全移行となりますが、春には、難視聴地域の解消ができる光ファイバーネットワークを利用したケーブルテレビ施設整備も完了する予定であります。また昨年引き続き、多くの町民の皆さまのご意見やご提案をいただきながら、安全で安心して暮らせることができるよう経済活性化の施策を考え、平成24年度から10年間のまちづくり計画となる第5次弟子屈町総合計画の策定および広域的市町村連携を目指す釧路市との定住自立圏構想協定締結に向け、取り進めてまいりたいと思っております。結びになります。先人から引き継いだ弟子屈町を責任を持って次世代につなげていくことが私に課せられた使命であると思っておりますので、本年も町民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶いたします。

## 町議会議長 八 幡 豊 行



## 年頭にあって

平成23年の新年を迎えるにあたり、町議会を代表し謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

町民の皆さま、あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、ご家族おそろいで新年をお迎えになられたことを、心よりお喜び申し上げます。また、日頃から町議会に対する格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成22年を振り返りますと、宮崎県で4月に発生しました口蹄（こうてい）疫をはじめ、TPPへの参加検討など、北海道農業への影響や危機感を一段と感じた年だったのではないのでしょうか。今後も、先行き不安な状況が続くことが考えられます。

本町に目を向けますと、基幹産業の一つであります農業の畑作は、6月以降の記録的な猛暑と大雨により品質低下と病害虫の発生が重なり、収量が落ち込んでおります。また、酪農にお

ても猛暑の影響を受け、生乳生産が昨年に比べ落ち込み、畑作も含め経営は大変厳しい状況であります。

観光では、国内人口減少による消費の低迷が続いており、上期では右肩下がりが続いた宿泊者数がほぼ半年並みとなりましたが、現状では今後も明るい兆しは見られない状況であります。

町民の皆さまにも、基幹産業であります観光に対してのご協力をいただきますようお願いいたします。

商業において依然として厳しい状況が続いており、関係機関が連携し、新しい試みと発想に取り組んで、本町の活性化と発展にさらなる努力を期待するものです。

今日の地方自治体を取り巻く環境は、財政面に対しても先行き不透明であります。執行機関と連携を密にし、わが町の発展のために諸課題の解決に努力を重ねてまいりたいと存じますので、町民の皆さまの一層のご支援、ご協力を賜りますよう、心からお願いたします。

結びになりましたが、新しい年が皆さまのさらなる充実と飛躍の年でありますように、ご清祥とご多幸をご祈念申し上げます。年頭の言葉といたします。

## 輝かしい新春を迎えて

## 町教育委員会教育長 小林 俊 夫



町民の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

平成23年の年頭に当たり、謹んで新春のお喜びを申し上げます。

平素より、皆さまには町教育行政に対しまして、特段のご理解とご支援を賜り、心より感謝を申し上げます。

さて学校教育において、平成20年3月、文部科学省より新学習指導要領が告示され、これまで小・中学校において移行措置を進めてまいりましたが、いよいよ小学校では本年4月より新教育課程が全面实施となります。しかし、いかに内容が変わろうとも「生きる力」の重要性に変わりはなく、変化の激しいこれからの社会を生きるために、家庭や地域社会と連携しながら、知・徳・体のバランスのとれた力の育成に努めてまいります。

施設面におきましては、弟子屈中学校および学校給食センターの建築が順調に進み、本年3月、校舎が完成予定となっております。「自然光あふれるエコスクール」が1日も

早く完成し、新たな環境のもと、充実した教育活動が推進されますことを願っております。完成の暁には、ぜひ多くの皆さまにもご来校いただければ幸いです。

社会教育においては、文化・スポーツ両面で、昨年も多くの皆さまが活躍されました。スポーツでは、小学生から一般まで26大会に1000人を超える選手が全国・全道大会に出場されました。文化活動では、パトントワリングや剣詩舞で全道・全国大会に出場するなど、町民に元気を与えていただきました。本年も一層のご活躍を期待しております。

また、文化センター開館25周年を記念してさまざまな催し物が行われましたが、特に札幌交響楽団による「摩周湖ブルーコンサート」や「プラハ・パロク合奏団による公演など、多くの町民の皆さまにご来場いただきました。

今後とも、子どもたちが生き生きと学校生活を送ることができるよう、そして、町民の皆さまが生きがいと潤いのある充実した生活を営むことができるよう、関係機関とも十分連携をとりながら、本町教育が一層充実・発展するために努力してまいりますので、これまで同様、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

この一年、町民の皆さまにとりまして健康で幸多きことをご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。